

ほうしょう やいち
宝生 弥一 (1908~1985)



能楽師(ワキ方宝生流)。松山市出身。本名は光本弥一郎。能楽のワキ方として戦後第一級と評される。大正7(1918)年、11歳で父とともに上京し、しもがかりほうしょうりゅう下掛宝生流第10代家元・ほうしょうしん宝生新入門し、翌年初舞台を踏んだ。昭和12(1937)年、芸事継承のため入籍して宝生姓を名乗り、昭和19(1944)年、宝生新が没してより下掛宝生流の家元後見として流儀を統率した。

その品格の高い重厚な芸風は、芸術院賞を初め多くの賞を受けるとともに数度の叙勲を受け、昭和56(1981)年に重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定された。

略歴

明治41(1908)年7月2日	松山市にワキ方宝生流の光本敬一の長男として生まれる。
大正7(1918)年	上京し、下掛宝生流家元・宝生新に入門する。
大正8(1919)年	「小鍛冶」の大臣の役で初舞台
大正12(1923)年	開成中学夜間部で学んでいたが、関東大震災に遭い松山に帰る。
昭和6(1931)年	法政大学専門部高等商業科を卒業
昭和8(1933)年	宝生新の次女と結婚
昭和12(1937)年	宝生家に入籍し、宝生姓を名乗る。
昭和19(1944)年	宝生新が亡くなり、家元後見となる。
昭和45(1970)年	芸術祭優秀賞を受賞
昭和47(1972)年	紫綬褒章を受章
昭和55(1980)年	芸術院賞を受賞
昭和56(1981)年	重要無形文化財保持者(人間国宝)の認定を受ける。 勲五等双光旭日章を受章
昭和59(1984)年	芸術院会員となる。
昭和60(1985)年3月11日	76歳で永眠。墓所は東京都荒川区東日暮里の善性寺

〈関連図書〉

- ・『えひめ 人 その風土』愛媛放送株式会社 1986年
 - ・西野春雄、羽田昶『能・狂言事典』平凡社 1987年
 - ・愛媛県史編さん委員会『愛媛県史 人物』愛媛県 1989年
 - ・林和利『能と狂言－生成と展開の諸相－』世界思想社 1994年
- 〈主な収蔵資料〉…(P214, 89)